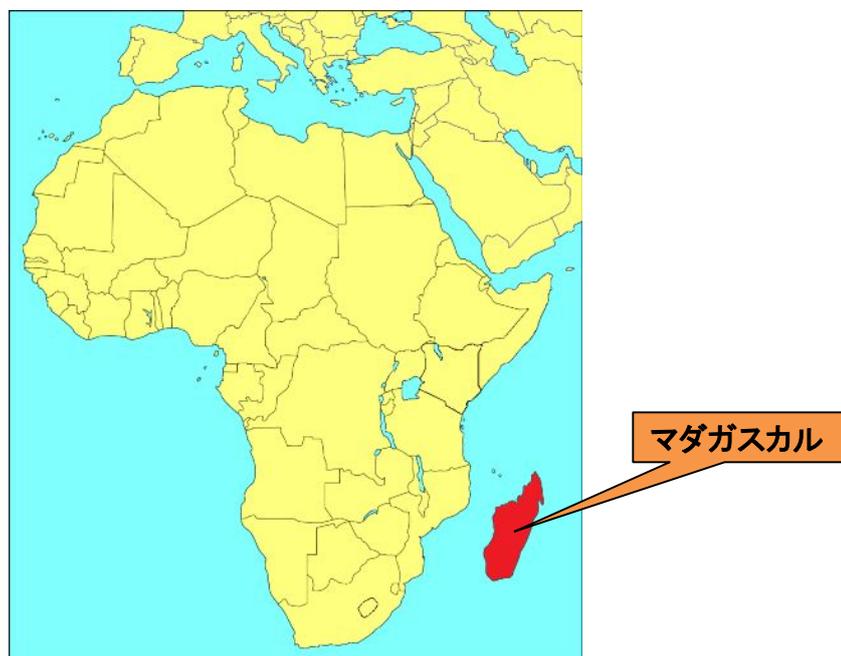


マダガスカルでペストが発生

2012年11月19日 ProMED 情報 (L'Express de Madagascar)



雨期に入り、ペストの媒介動物としてネズミ(寄生ノミ)が生息地へ逃難するため、ヒトへの被害が発生します。この1カ月で6名がペストにより死亡しました。

11月14日現在、健康管理・疫学調査当局(DVSSE)の報告によると、Bongolava地域での被害がひどく、診断された43名のうち、腺ペストで2名が10月2日、2名が11月5日、1名が11月9日に死亡しました。また、Vakinankaratra地域のMandoto地区でも、10月9日に1名が死亡しました。さらに同日、Haute-Matsiatra地域のAmbalavao地区でも3名の患者が発見されました。

保健当局責任者によると、各保健センターには迅速診断テストとすみやかな治療のための薬剤が配布されています。しかし、これらの患者は、マダガスカルパスツール研究所でまだ確定診断されておらず、迅速診断テストの結果が陽性であっても、確定診断される患者は例年報告数の30~40%です。ペストの疑い患者数は毎年300~500名です。

〔ProMED 調整者〕

ペストはネズミに寄生したノミによって運ばれたペスト菌(*Yersinia pestis*)で感染します。現在、雨期の始めには、多くのネズミがマダガスカル下水道から逃れて、人々の住む小屋に侵入します。1930~1990年、腺ペストは、効果的なペストコントロールと正しい健康管理の結果、報告はみられませんでした。しかし、1990年以降、毎年200名の患者が報告されており、特にマハジャンガ Mahajanga 港では毎年流行しています。また、首都アンタナナリボ Antananarivo では、1990年以降、多数の患者が毎年届出されています。人口1,300万のマダガスカルは、アフリカで報告される全ペスト患者数の45%を占めています。